

国際共同研究事業 令和3(2021)年度実施報告書

令和 4年 4月20日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

政策研究大学院大学・政策研究科

[職・氏名]

教授・飯塚倫子

[課題番号]

JPJSJRP 20211701

1. プログラム名 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI)

2. 研究課題名

(和文)ワクチンのためのイノベーションと補完的能力

(英文)Innovation and complementary capabilities for vaccines

3. 共同研究実施期間

令和 3 年 12 月 1 日 ～ 令和 6 年 11 月 30 日 (3 年 0 ヶ月)

4. 相手国側代表者 (所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Institute of Development Studies, University of Sussex, Leader, Business, Market & State Cluster, Anabel
Marin

5. 当該年度実施状況

- ・当該年度実施計画書の「当該年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの実施状況がわかるように記載してください。
- ・当該年度又は前年度(複数年契約を締結し繰越を行った場合)の各費目における増減が研究経費総額の 50% (この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円)に相当する額を超えた場合は、その理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。

本プロジェクトは、2021 年度に日本側と相手国側の参加者との間で、研究全体のコンセプトや研究のフレームワークについて入念な調整を行なった上で、それぞれ担当国を分担しケースの収集をすることになっていた。しかしながら、日本側の開始時期が12月、英国側が2月であったため、実質上内容についての話し合いは2月からの開始となった。

2021年12月から2022年2月までの間、日本側で出来る事を行った。これらは以下の通りである。

2021年12月から2022年2月

1) プロジェクト研究補助者の募集と雇用

安室奈美氏を本プロジェクトの研究補助者として雇用した。(プロジェクト期間内、週2日勤務)

2) オフィス設置

飯塚倫子教授の研究室内に本プロジェクトオフィスを設置した。

3) リサーチアシスタント(RA)の採用と業務内容

RA に本学博士課程に在学中の Song Tung Tran 氏を採用した。Tung 氏は、本学のベトナムからの留学生である。担当は、ベトナムのワクチン事例について調べるとともに、RA として幾つか関連分野の研究を行うことである。Tung 氏は1月から、規制とイノベーションについてのプレリミナリーな文献レビュー(過去5年分のみ)を実施した。また2月からはベトナムのワクチン開発を取り巻く、法整備、制度、機関、企業についてのレポートを作成中である。これらは、フィールド調査を開始するための準備資料である。

4) インドネシア国立研究革新庁(Badan Riset dan Inovasi Nasional:BRIN)との打ち合わせ

本プロジェクトではインドネシアのケースを取り上げる予定としている。このため、科学技術、イノベーションの知見を持つインドネシアの研究者・研究所に協力を求めるべく、検討を行った。この結果、BRIN が、研究開発、イノベーション研究に実績のある機関であること、またインドネシアのワクチン開発についての研究を行いつつあることが判明。

上記を踏まえ、BRIN の Dr. Dudi Hayat, Director of Research, Technology, and Innovation Policy Formulation と連絡をとり、そのほか研究者2名とオンラインで打ち合わせを行った。打ち合わせでは、インドネシア側がこれまでのワクチンに関する研究内容を説明し、どのような形での協働が可能かについての意見交換を行った。しかしながら、英国との正式な話し合い前であったため、この段階では、詳細な研究内容についての議論に至らず、後により詳細な議論をすることとなった。

2月1日から英国側のプロジェクトも開始され、共同研究に向けての話し合い、準備が始まった。これらは以下の通りである。

2022年2月から3月末まで

1) 相手国代表者との打ち合わせ

Institute of Development Studies (IDS)・Research Fellow and Cluster Leader である、Dr. Anabel Marin と2週間に一度の頻度で個別に、進捗に関する短い情報交換を行っている。まず2月初旬に両チームの顔合わせをするべくスケジュール調整を行った。また、これから必要となるデータベースの共有などの検討と調整の必要性についても話し合った。これら話し合いをもとに第1回目の全体会議を行った。

第1回全体会議の後は、具体的なデータベースの購入、外部専門家(文献レビュー、Web scraping など)の雇用、プロジェクトの全体的な流れについて、より詳細な意見交換を行った。これらは第2回、第3回の全体会議の準備と位置付けられる。

2) 参加メンバー全体での打ち合わせ、プレゼンテーション

2月以降から3月末まで計2回の全体会議をオンラインで行った。

2月の第1回目は、プロジェクトプロポーザルに基づくプロジェクトの概要を共有するとともに、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、アジアにまたがる研究者の自己紹介を行った。3月には各自の専門性についての短いプレゼンテーションを行い、参加している研究者間での専門性の補完性を共有した。

4月には第3回の全体会議が計画されている。この会議では、研究の理論的枠組みにより踏み込み、8名のメンバーが分野及び国の状況についてプレゼンテーションを行い、これからの研究の方向性と計画を明らかにしていく予定である。

7. 研究発表(当該年度において本共同研究の一環として本事業による支援を受けたことを明示して発表したものについて記載してください)

[雑誌論文] 計(0)件 うち査読付論文 計()件

通 番	共 著 の 有 無 ^{*1}	著者名、論文標題等 ^{*2}
1		
2		
3		

[学会発表] 計(0)件 うち招待講演 計()件

通 番	共 著 の 有 無 ^{*1}	発表者名、発表標題等 ^{*2}
1		
2		

[図 書] 計(0)件

通 番	共 著 の 有 無 ^{*1}	著者名、著書名等 ^{*2}
1		

*1 相手国側参加者との共著(共同発表)がある場合は○と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年(西暦)、最初と最後の頁、掲載論文の DOI、学会発表の場合は発表者名、発表標題、学会等名、発表年(西暦)、発表地(国名、国外開催の場合のみ)、図書の場合は著者名、著書名、出版社名、発行年(西暦)、総ページ数、ISBN、など(順番は入れ替わってもよい)。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。

8. 本事業による産業財産権の出願・取得状況(当該年度に出願又は取得したもの)

[出 願] 計(0)件

通 番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、出願年、国内・外国の別
1	

[取 得] 計(0)件

通 番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、取得年、国内・外国の別
2	

* 必要に応じて、欄を追加してください。